

## 29年7月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 7月1日～ 29年7月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
7月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
入荷動向	国産材製材品	△ 6.3	△ 25.0	△ 6.3
	外材製材品	△ 6.3	△ 6.3	0.0
	その他	0.0	0.0	△ 8.3
販売動向	国産材製材品	6.3	△ 12.5	6.3
	外材製材品	△ 37.5	△ 31.3	△ 12.5
	その他	△ 8.3	△ 16.7	△ 16.7
在庫動向	国産材製材品	0.0	△ 12.5	0.0
	外材製材品	△ 12.5	△ 6.3	△ 6.3
	その他	8.3	8.3	0.0

・国産材製材品の入荷動向は3カ月連続減少。外材製材品は7月、8月の減少から9月は横ばいに。その他は7月、8月の横ばいから9月は減少に。

・販売動向は、国産材製材品は7月の増加から8月減少、9月は再び増加に。外材製材品、その他とも3カ月連続減少。

・在庫動向は、国産材製材品は7月の横ばいから8月は減少、9月は再び横ばいに。外材製材品は3カ月連続減少。その他は7月、8月の増加から9月は横ばいに。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	25.0	6.3	12.5
	柱角 KD12×3	12.5	6.3	12.5
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	7.1	7.1	7.1
	母屋角	18.8	12.5	18.8
	タルキ	0.0	0.0	6.3
	間柱	18.8	6.3	12.5
	加工板	△ 7.1	0.0	0.0
	ヌキ	△ 6.3	△ 6.3	6.3
	平割	△ 6.3	0.0	6.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	6.3	6.3	12.5
	柱角 KD12×3	△ 6.3	△ 12.5	△ 6.3
	土台角 10.5×4	12.5	12.5	25.0
	土台角 12×4	6.3	0.0	6.3
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	6.3	12.5	12.5	
米マツ割物	21.4	21.4	21.4	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	△ 7.1	0.0	0.0	

・スギの価格動向は総じて強含みだが、通し柱12×6、加工板は横ばい。

・ヒノキは柱角KD10.5×3、土台角10.5×4及び12×4は強含み。柱角12×3は弱含み。通し柱は横ばい推移。

・カラマツ土台角10.5×4は保合い推移。

・米マツは平角、割物とも強含み。北洋エゾマツ及び北洋アカマツタルキは保合い推移。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・入荷は90mm角と105mm角のスギが大きく減少、ヒノキもやや減少。米材は減少気味、ロシア・北欧材は増加。在庫は90mm角がやや少ない(関東)。
- ・国産材・外材ともに入荷順調。販売動向は、8月は日数が少ないため若干動きが悪い。動きが悪い分定期的に入荷する国産材の在庫は多様増える(関東)。
- ・入荷動向は、スギ・ヒノキは造作材に当用買いの動きがあり入荷は増えた模様。ただし、外材製品は全般的に入荷状況が改善しない。販売動向は、国産材は売れた模様。外材製品は品物不足感が強く、販売単価は上がっている。在庫動向は、国産材は増減が少なく、外材製品は米マツ製品全般の不足感が目立つ(中部)。
- ・スギ・ヒノキは原木の減少により製品の入荷量も減少。販売量、販売単価も減少傾向だが、入荷量が少ないため在庫は減少(中部)。
- ・販売動向は、主な販売先である材木店の落ち込みが大きい。プレカット工場は横ばい状態(近(価格動向))
- ・90mm角に関してはかなり少ない状況。米ヒバがない状況で、ヒノキ4寸角が上昇してきている。カラマツの土台角は在庫が少ない。RWの平角は上昇している(関東)。
- ・スギの角物は9月月以降値上りする予感がある。スギの板ものは9月以降変動がありそうだ。ヒノキは9月以降に値上がりする予感。米マツ平角・割物は不足感から今後も値が上がっていきそうだ。北洋エゾマツ・アカマツタルキは現状維持(関東)。
- ・単価 スギ柱角(KD10.5cm) 60,000円/m<sup>3</sup>、(KD12.0cm) 60,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角(東北材) 40,000円/m<sup>3</sup>、母屋角(二等) 30,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ(東北材) 45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱(KD) 60,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板(グリーン材) 束3,800円、(KD) 束4,800円、スギヌキ(東北) 40,000円/束、秋田材50,000円/束 スギ平割(プレーナー45,000円/m<sup>3</sup>、同(ラフ) 43,000/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角(KD)・土台角10.5cm、12.5cm 80,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角 KD 65,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物AD 65,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ(アSEMBル単価) (S) 70,000円/m<sup>3</sup>、(P) 60,000円/m<sup>3</sup>、(バンドル単価) (S) 67,000円/m<sup>3</sup>、(P) 57,000円/m<sup>3</sup>(関東)。
- ・スギの需要は少ない地域だが、今後、九州材の変動の影響があるかもしれない(中部)。
- ・ヒノキの入荷量減少により価格を上げていきたいが、太い製品は需要が少なく値上げしづらい(中部)。
- ・米ヒバの需要増のため、今後ヒノキの土台角が不足気味のなってくる(近畿)。